

(一社) 石川県食品協会

調味料・日本酒・菓子・大豆加工品・水産加工品等

基本情報

対象国	欧米、東南アジア等	輸出額	21.2億円（2月末）	加盟者数	約270社
主な販売先	小売・外食	活動地域	石川県	品目数	30品目
希望スキーム	直接/間接輸出	備考	-		

県内団体としての協力体制を構築し、マーケティングとプロモーションを徹底

個々の会員企業の後押しだけでなく、県内食品企業を束ねる業界団体としての強みを活かすことで会員企業同士の協力体制の構築を促す。今後の輸出拡大に向けて、海外ニーズの把握とプロモーションの徹底を戦略とする。

団体概要

所在地	石川県金沢市
設立年	1988年
事業内容	イベント開催・出展のサポート、 商談会・認証に向けたセミナー
認証取得	-
生産規模	-



取組の経緯/概要

- ・石川県では食品産業が機械産業に次ぐ基幹産業であり、2014年に「石川県食品産業成長戦略」が策定された。今後の国内市場の縮小を見据え「海外取り組みの促進」が一つの柱となっており、食品協会は県から支援を受けつつ、一層輸出拡大支援に取り組むようになった。
- ・2008年にFOODEX JAPANに初出展をし、その後ニューヨークでの国際レストラン・フードサービスショー(2010年)、ウィンター・ファンシー、フードショー(2012年)、シンガポールでの展示会(2014年)など、既に海外展開への取組推進による知見が蓄積されてきている。
- ・2021年6月末にバイヤー向けサイト「ifa-connect」の運用を開始し、その後カンボジアイオンとのオンライン商談を行うなど、コロナ禍での海外展開にも力を注いでいる。

取組の成果

- ・輸出額：21.2億円（2022年度2月末）→37.2億円（2025年度目標）
- ・WebサイトPV：年間500PV（国内向けでは年間5万件）（2022年度2月末）
- ・オンライン商談：年間100件の商談機会を獲得 成約20件（2022年度2月末）

取組のポイント

輸出先国によって多様な現地消費者ニーズに対応すべく、石川県と一体となり豊富な品目を活かし出展・PRを実施

輸出を進める上で抱えていた課題

TASK

課題

1

品目の多さを活かし、現地消費者に対する効果的なアプローチが必要

TASK

課題

2

個社でのPR活動が困難となるコロナ禍の渡航規制下における、効果的なアプローチ

TASK

課題

3

海外販路開拓に向けた現地ニーズ・トレンド・規制に関する情報の収集

輸出成功のポイント

ターゲット国におけるニーズを把握

過去の取組を元にニーズを把握した上で、新たな展示会においてモニタリング調査をすることにより、最新のトレンドを分析

県内企業で団結しイベント出展が可能に

複数企業が団結し出展エリアの獲得に成功。1年で5つのイベント参加とHISと協力したロンドンでのフェア開催を予定

事業者育成のため外部人材を登用しセミナー開催

2017年には米国輸出に詳しいコンサルタントを、2021年にはイギリス出向中の県職員を招き、セミナーを実施

サプライチェーン別取組

協議会で規制情報・現地ニーズ等の情報を発信

- 各国の規制や情勢等の情報に迅速に対応して商品開発が可能となるよう、協議会がハブとなって会員に情報を発信

外部人材の登用

- 石川県と関係性の深い現地事業者等に代理販売を依頼
- 市場動向・市場ニーズ・輸出規制・貿易に関する研修・セミナーを実施

現地アンテナショップECサイトの活用

- アンテナショップ(シンガポール)、ポップアップストアやEC店舗でテスト販売

商品選定・開発

流通

販売

今後の輸出拡大に向けて

コロナ禍の落ち着きで輸出機運が上昇している好機を生かし、食品協会内に輸出促進を目的とした協議会を設置。

海外における日本食のニーズ増加に伴い、商品のみではなく、歴史・経緯・文化なども発信して石川（金沢）としてのブランディングを確立して輸出促進を目指す。